

立川相互病院 山田 秀樹副院長

東京新聞(多摩版)で被災地の窮状を訴える！！



震災発生の翌日、いち早く被災地の坂総合病院(宮城県塩釜市)へ支援に行った立川相互病院山田副院長が、帰着後、東京新聞の取材を受け、現地の医療状況の窮状を訴えました。

医薬品について、「点滴やインシュリンが不足。被災者の疲れがたまっているので、これからインフルエンザが流行するだろうが、タミフルも足りない。国や各自治体には相当数の備蓄があるのだから、被災地に効率よく回るようにしてほしい。」と訴えた。

また、「大した被害を受けていないはずなのに、物資不足で閉院して入院患者を隣県に回す仙台市内の大病院があった。医療機関の連携が取れていれば解決できたはずなので、つなぎ役が必要だ。また、物資が確実に被災地に行くように、国がしっかりと号令をかけるべきだ。」と行政に求めた(18日付、多摩版に掲載)。

YouTube (You Tube) ホームページにアップ

本日、18日の正午までに、YouTubeおよび全日本民医連にアップされます。全職員、共同組織の方々の視聴を呼びかけます。お昼休みや、職員集会などで大いに活用してください。

- 1 全日本民医連 藤末会長が今回の震災に対する全日本民医連のとしての現時点での方針を直接ビデオで訴えます。
- 2 「福島第1原発事故への対応」について、全日本民医連の長瀬事務局長が、「今の事態をどう見るべきか」「今、何が心配でなにをすべきか」「支援に入る場合の注意事項」などについて質問、顧問医師(元全日本民医連被ばく問題委員会委員長)がこたえています。

ヨウ素カリウム丸 確保

東京民医連は、協立医師協を通じてヨウ素カリウム丸 10,000錠を確保しました。本日、100錠が県連に届けられる予定です。支援に行く際、必要な方は県連にご相談ください。

【訂正とお詫び】No.21の現地支援報告で「城南福祉医療協会支援チーム」は、「城南三法人支援チーム」、「秋山医師発」は「大森中診療所 伊藤 邦夫氏発」の誤りでした。訂正してお詫びいたします。